

2. 追加項目・自由意見について

みなさまからのご意見を集約し、追加項目・自由意見を反映させました。コメント一覧は下記に示しています。

(1) 規範(きはん)

復旧や復興の主役は被災者です。ボランティアはそれをサポートする存在であるという原則を忘れないように心がけましょう。また、被災地や被災者、地元行政、ボランティアセンターなどに対しては、あなたの善意を活かす場を作ってくれたことに感謝しましょう。

防災ボランティアは、水・食料・常備薬・適切な服装・保険等、必要な備えをして自己完結を原則に被災地に入りましょう。被災者・被災地や現地ボランティアセンターに負担をかけないようにしましょう。

仕事がなくとも、ボランティアニーズをむりやり探し出すのではなく、被災地 / 被災者のことをよく理解するようにしましょう

睡眠時間や疲労などに留意し、健康の事前チェックに努め、不調になったら早めに活動をやめる勇氣を持ち、けがなどで被災地の負担にならないようにしましょう。

被災地でのボランティア活動に参加する際は、自分の行動計画を周囲に事前に説明してから、でかけましょう。

仲間とよく話し合い、一人で仕事を抱えこまないようにしましょう。

災害の規模、種類、地域などにより、災害ボランティアセンターの運営などに違いがあって当たり前です。あくまで、被災した現場が中心であることを忘れないようにしましょう。

災害ボランティアセンターの核となる現地スタッフは可能な限り休む時間を持つことに努め、周りはそれを理解し支えましょう。

について

「復旧や復興の主役は被災者です。ボランティアはそれをサポートする存在であるという原則を忘れないように心がけよう」もし、外部の個人ボランティアに対してなら「被災地や被災者、地元行政、ボランティアセンターなどに対しては、あなたの善意を活かす場を作ってくれたことに感謝しよう」という下りはいかがでしょうか。よくいう「ボランティアをしてやっているではなく、させてもらっている」ということだと思います。<中川氏(時事通信社)>

「防災ボランティア活動は、被災者・被災地のためのものです。被災者の自立や地域の復興をサポートするという原則を忘れないよう心がけましょう」。<池上氏(財団法人市民防災研究所、東京YWCA)>

「原則を「目的」に変えてはいかがでしょうか」<鍵屋氏(板橋区福祉事務所長)>

について

「迷惑・心配」は「負担」のほうが適切ではないでしょうか。<中川氏(時事通信社)>

「・・・被災者・被災地や現地ボランティアセンターに迷惑・心配をかけないようにしましょう」。<池上氏(財団法人市民防災研究所、東京YWCA)ほか>

について

有珠山の時に間仕切りを不要とした避難所にあった「今静かに、苦しさに耐える慶びを」という張り紙を許容することになりかねない。誤解を招く項目ですし、1で「主役は被災者」といつているのだから、それでよしではないでしょうか。あえて入れるとすれば「仕事がなくても、ボランティアニーズをむりやり探し出すのではなく、被災地/被災者のことをよく理解するようにしましょう」とか、「被災者の話をすぐにニーズに結びつけないようにしましょう」とかいうことでしょうか。足湯などでのゆったりした気持ちと、そこから被災者/被災地自身のやる気と寄り添うような支援が大切なのではないでしょうか。<中川氏(時事通信社)>

「・・・を持つようにしましょう」<池上氏(財団法人市民防災研究所、東京YWCA)ほか多数>

について

「早めに活動をやめる勇気を」のあとに、「けがなどで被災地の負担にならないようにしよう」<中川氏(時事通信社)>

「・・・勇気を持ちましょう。」<池上氏(財団法人市民防災研究所、東京YWCA)ほか多数>

について

「家族・知人」という限定の仕方はどうかなあ。「心配をかけないように」とは、まるで高校生や大学生だけが対象のようなお説教調に感じますね。少なからずは社会人ですし。「被災地でのボランティア活動に参加する際は、自分の行動計画を周囲に事前に説明しておこう。不幸にも事故などにあつた際にも被災地の負担をよりかけずにすむからだ」とかは？きはんがこれでいいのかしらん？BSのように「3つのちかい、8つ(昔は12)のおきて」とかと項目を絞り込んでいくのか、どんどん増やしていくのか、これも考えておかないと。増やす前提なら、矛盾する項目がどんどん増えてくると思います。<中川氏(時事通信社)>

「・・・かけないようにしましょう。」<池上氏(財団法人市民防災研究所、東京YWCA)ほか多数>

(その他 追加意見)

「仲間とよく話し合い、一人で仕事を抱えこまないようにしましょう。」「災害の規模、種類、地域などにより、災害ボランティアセンターの運営などに違いがあつて当たり前です。あくまで、被災した現場が中心であることを忘れないようにしましょう。」「災害ボランティアセンターの核となる現地スタッフは可能な限り休む時間を持つことに努め、周りにはそれを理解し支えましょう。」<栗田氏(レスキューストックヤード)>